

津波災害

津波から身を守る

津波は地震発生にともない襲来するため、どのように行動するかを考えておくことは、自分や家族の命を守るためにも大切なことです。日頃から「津波に対する心構え」を持ち、津波による被害から身を守りましょう。

- ① 海岸や河川敷にいて、強い地震や長い地震(1分以上)の揺れを感じた時は、身の安全を確認したうえで、**すぐに避難しましょう。**
- ② テレビやラジオの情報をもとに、**すぐに避難しましょう。**
- ③ 消防・警察からの指示や、市の防災行政無線・広報車による避難勧告や指示があったら、**すぐに避難しましょう。**
- ④ 海岸や河川敷から離れて、出来るだけ山側へ避難しましょう。あるいは、より高い場所(万一の場合、「津波避難タワー」や鉄筋コンクリート等の頑丈な建物)へ避難しましょう。
- ⑤ 自動車はやめて、歩いて避難しましょう。
- ⑥ 津波は繰り返し襲ってきます。津波警報や注意報が解除されるまで、海岸や河川敷には絶対に近づかないようにしましょう。
- ⑦ 正しい情報をテレビ、ラジオ、防災行政無線、広報車などから得て、冷静に行動しましょう。



津波警報と注意報の種類

種類	発表基準	発表される津波の高さ		想定される被害と取るべき行動
		数値での発表 (津波の高さ予想区分)	定性的表現での発表	
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合。 《特別警報》	10m超 (10m < 予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊流出し、人は津波による流れに巻き込まれます。ただちに海岸や川沿いから離れ、避難場所が高台など安全な所へ避難してください。
		10m (5m < 予想高さ ≤ 10m)		
		5m (3m < 予想高さ ≤ 5m)		
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m (1m < 予想高さ ≤ 3m)	高い	標高の低いところでは、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。ただちに海岸や川沿いから離れ、避難場所が高台など安全な所へ避難してください。
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m (0.2m ≤ 予想高さ ≤ 1m)	表記しない	海の中にいる人は速い流れに巻き込まれ、また、小型船舶が転覆します。ただちに海から上がって、海岸から離れてください。

風水害・土砂災害

風水害に備えて

風水害は、事前にある程度予測できるとはいえ、台風などがもたらす大雨・強風の威力は計りしれません。また台風が過ぎ去ったとしても河川の増水・氾濫の恐れがあります。テレビ・ラジオなどの気象情報にじゅうぶん注意し、万全の対策をとるようにしましょう。

注意報・警報・特別警報

種類	発表の時期
大雨特別警報	台風や集中豪雨により数十年に一度の大雨が予想されるとき。重大な災害が発生する可能性が高まっているとき。
記録的短時間大雨情報	1時間雨量100mmの猛烈な雨を観測したとき。
大雨警報	大雨によって重大な災害が起こるおそれのあるとき。
洪水警報	河川の増水によって重大な災害が起こるおそれのあるとき。
大雨注意報	大雨によって災害が起こるおそれのあるとき。
洪水注意報	河川の増水によって、災害が起こるおそれのあるとき。
土砂災害警戒情報	雨量や過去の災害の記録などから土砂災害が発生する危険度が高まったとき。
竜巻注意情報	積乱雲の下で発生する竜巻、ダウンバースト等による激しい突風が発生しやすい気象状況になったと判断された場合に発表します。
高温注意情報	最高気温が概ね35℃以上になることが予想される場合に発表し、熱中症への注意を呼びかけます。

雨の降り方と注意報・警報の関係(目安)

発表目安	記録的短時間大雨情報				
	大雨注意報			大雨警報	大雨特別警報
予報用語	やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間雨量(mm)	10~20mm	20~30mm	30~50mm	50~80mm	80mm以上
雨の降り方 人の受けるダメージ	ザーザーと降る	どしゃ降り	バケツをひっくり返したように降る	滝のように降る (ゴーゴーと降り続く)	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる
人への影響	地面からの跳ね返りで足元がぬれる	傘をさしていてもぬれる	傘はまったく役に立たなくなる		
屋内 (木造住宅を想定)	雨の音で話し声がよく聞き取れない	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく			
屋外の様子	地面一面に水たまりができる		道路が川のようになる	水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる	
車に乗っていて	ワイパーを速くしても見づらい		高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる	車の運転は危険	

土砂災害対策の概要

急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)
市では、急傾斜地の崩壊(がけ崩れ)による土砂災害の危険性があります。

土砂災害が発生すると、人命に関わる重大な被害をもたらします。大雨や大雨のときに次のような現象を確認したら、早めに避難しましょう。

急傾斜地崩壊の前兆現象

- がけからの水がにごる。
- 地下水やわき水が止まる。
- 斜面のひび割れ、変形がある。
- 小石が落ちてくる。
- がけから音がする。
- 異様な匂いがする。

急傾斜地崩壊危険箇所I,II,IIIとは

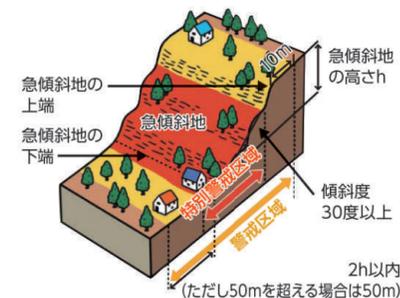
傾斜度30度以上、高さ5メートル以上の急傾斜地で、1戸以上の人家(人家がなくても官公署、学校、病院等の公共的な施設等のある場所を含む。)に被害を及ぼすおそれのある箇所をいいます。

上記の急傾斜地が被害を及ぼす可能性のある人家戸数が

- ・5戸以上 急傾斜地崩壊危険箇所I **I**
- ・1~4戸 急傾斜地崩壊危険箇所II **II**

被害想定区域内に人家がない場合でも、都市計画区域内や人口が増加している市町村等で住宅等が新規に立地する可能性があると考えられる箇所

- ・急傾斜地崩壊危険箇所に準ずる斜面III **III**



2つの警戒区域を知っておきましょう

県では、がけ崩れが発生した場合に被害を受けるおそれのある区域を、土砂災害警戒区域などとして指定しています。

- ・イエローゾーンとレッドゾーンがあることに注意しましょう。
- ・それぞれ警戒区域などに指定された際の対策が異なります。

土砂災害警戒区域(通称:イエローゾーン)

土砂災害のおそれがある区域のこと。

土砂災害特別警戒区域(通称:レッドゾーン)

土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域のこと。